高校三年卒業したからとて、
あまりにもひどすぎる。

まあ、うかって鼻高々で、
意気揚々としておるのは仕方ない事だが。

と思っていると、その時、兄貴が帰って来た。

兄貴が僕の部屋の戸を開けて、いきなり僕に言った。

「ハンドボールやめるのかどうか、
はっきり加藤に言っといた方がいい。
その方が、お互い気持ちがいいから。」

僕がやめたら、高校ハンドボールの
キーパーがいないらしい。
皆が困っているらしい。

高校に入ったら、少し、楽をしたかったが、
この調子じゃ、あきらめなきゃならんのかなあ。
と、思った。

「まま、しゃあないわあ。」と、
そこで、今日も練習しているだろうと思い、

「おばあちゃん、ごめん、ごはん食べるわ。」と言って、
早々めしを食い、ナップをひっかけて、家を出た。

学校へ行き、部長の加藤はんと交渉にゆくことにした。

84 女って、鋭いなあ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・370